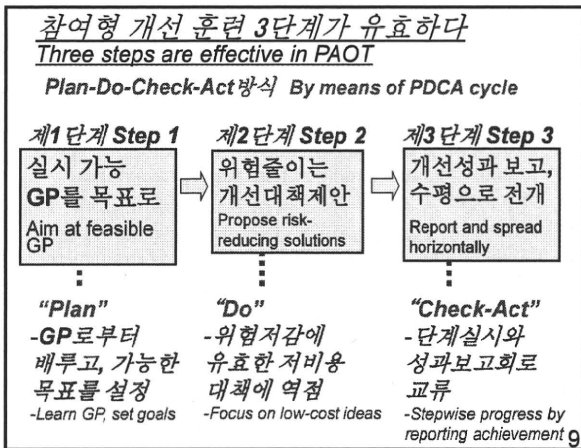


안전보건 양호사례 두 가지 유형
 Two types of good practices in improving safety and health at work

특징 Type	[A] 포괄적 위험 저감 Broad risk reduction	[B] 노사 직접 참여 Active participation
역점 Emphasis	부담·환경 다면 Multiple risks	이니셔티브 형성 Building initiative
계획과 실시 Plan + Do	유효적 개선 제안 Propose effective actions	실제적인 문제해결 Practical solution of real problems
계속 효과 Sustained effect	다양한 차원에서 개입 Multifaceted intervention	참여로 단계적 개선 Stepwise progress by participation

공통점은 위험을 줄이는 지속 효과가 있고, 일반 노동조건 향상에 기여하고, 법 기준과 윤리 지침을 채우는 것
 Both types aim at sustained risk reduction, better general condition and complying regulatory and ethical standards



1. GP를 배우고 자주개선목표로 한다
 Learn local GP as workable goals

- 목표가 되는 GP사례(위험 저감/저비용대책)를 제시
Present GP examples as goals (low-cost, risk-reducing)
- 사진으로 다양한 영역사례를 배우고 좋은 점·개선점들을 토의 Learn multi-area photos and discuss good points and improvement actions

운반과 보관 Materials handling

작업대 Work-stations

작업장 환경 Work environment

복지시설 Welfare facilities

작업편성 Work organization

<다영역 개선사례로부터 자주개선목표를 배운다>
 Set voluntary goals learned from local GP

2. 위험을 저감하는 개선을 복수 제안한다
 Propose multiple improvements reducing risks

- 저비용개선을 그룹토의로 복수 제안한다
Propose several low-cost actions by group work
- 인간공학·환경위생·스트레스 예방 기본원칙을 채용한 실시가능대책을 택한다 Select options reflecting basic ergonomics, hygiene, stress prevention

-제안형 액션 체크리스트
 By using proposal-type action checklist

인간공학·환경위생·스트레스 예방 원칙을 응용한 개선을 제안 Propose options applying basic principles in multiple areas

-지역 자원으로 가능한 대책을 선정 Select those feasible by local resources

<기본원칙 응용으로 위험 저감 효과가 보증된다>
 Risk reduction is assured when basic principles are applied

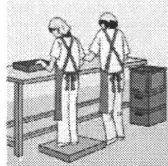
지역의 양호 실천에 의거한 액션 체크리스트가
 유효하다 - 인간공학·환경위생 원칙을 적용
 An action checklist reflecting ergonomics principles is useful

7. 팔꿈치 높이 내지 약간 아래 쪽에서
 작업한다 Work at elbow height

이 대책을 제안합니까 Propose?

아니오 No 네 Yes 우선 Priority

비고 양호사례를 기입 Give good examples

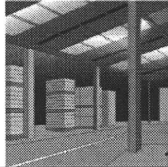


18. 천창, 높은 창문을 설치하고 창문을
 깨끗하게 유지한다 Add skylights and
 keep windows clean

이 대책을 제안합니까 Propose?

아니오 No 네 Yes 우선 Priority

비고 대책을 기입 Write measures needed



13

3. 단계적 개선을 쌓고 수평으로 확산시킨다
 Spread improvements step-by-step and horizontally

- 저비용대책으로 현장에 맞게 단계적으로 진행한다
 Apply step-by-step low-cost ideas adjusted locally

- 직장의 GP를 도입한 토의 틀을 작성하고 사용한다
 Use group work tools incorporating local GP

- 단계적으로 진행함으로써 현장 조건에 맞는
 개선책을 쉽게 골수 있게 된다

-By stepwise progress, easy to select actions suited to local conditions

- 실존 GP 사례를 보여주는 토의 틀 사용으로 쉽게
 합의하고 활성화된다

-The use of tools with real GP facilitates consensus process

14

단계적 개선을 지원하는 퍼실리테이터 기능이 중요하다
 Facilitators who support stepwise actions play important role

- | | |
|--|---|
| • 이니셔티브 형성에
For building initiative | - 제약을 넘어 가능한 GP에
노력한다
Aim at GP despite constraints |
| • 위험평가·개선제안이
일체화된 순서로
Taking procedures that
integrate "assess + propose" | - 현장 적합 틀로 위험저감
효과 있는 대책을 택한다
Select risk-reducing options
by locally adjusted tools |
| • 지속적인 개선 지원을
To support continual
under improvement | - 현장조건으로 단계적으로
진행한다 Proceed stepwise
local conditions |

새로운 '전문가'상이 구축되고 있다

A new image of "experts" is being constructed 15

정리: 참여형 개선을 지원하는 방법은
 Summary: Hints for supporting participatory steps

(1) 양호 실천 학습 Learn good practices:

실시가능대책을 목표로 이니셔티브 형성
 Build initiative aiming at feasible improvements

(2) 기본원칙 활용 Learn basic principles: 실효

있는 인간공학·위생원칙 응용제안에 역점
 Focus on proposals having real effects in ergonomics

(3) 현장 적합 틀 Use locally adjusted tools: 현장

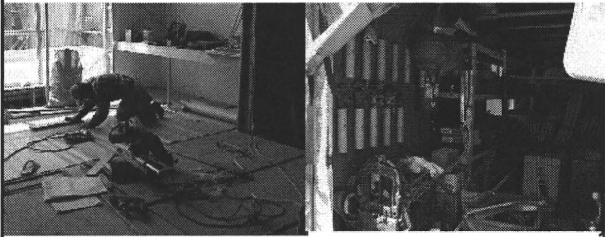
적합 토의 틀 제공으로 단계적 개선을 지원
 Encourage stepwise progress by locally adjusted tools

트레이너는 GP 목표의 단계적 개선법을 지원하는 점이 특징
 PAOT trainers support stepwise gains towards GP

16

建設現場の労働改善プログラム

1. ものの保管と移動



I. ものの保管と移動

ものの保管と移動の三つのルール

1. 明確で安全な通路を確保します。
2. 移動は少なく短くします。
3. 重量物の移動は少なく、効果的にします。

2

ルール 1: 明確で安全な通路を確保します。

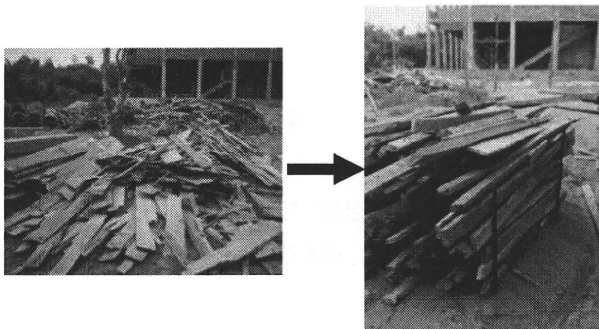
- 1. 通路ははっきりと色分け表示します。
- 2. 不必要な材料は作業場の外に置きます。
- 3. 開口部には囲いをします。
- 4. 道具や器材には保管場所を作ります。

3

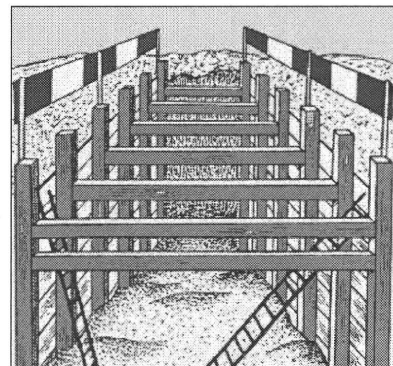
1. 通路ははっきりと色分け表示します。

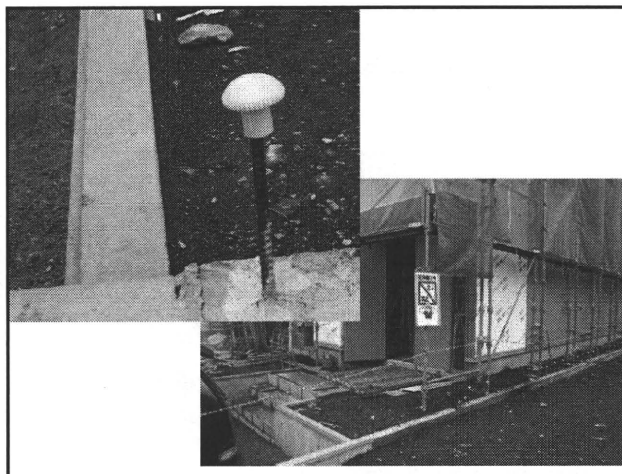
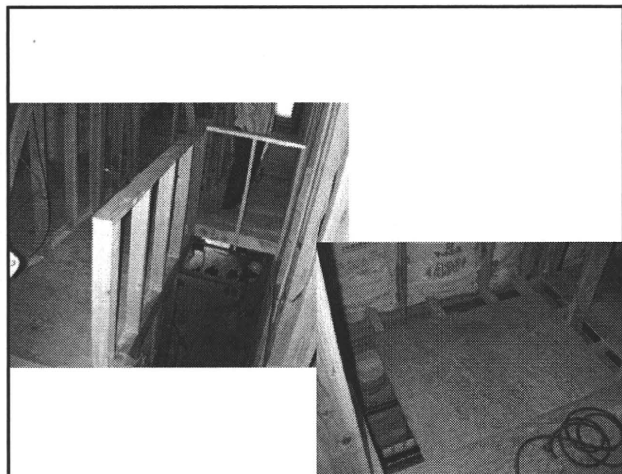
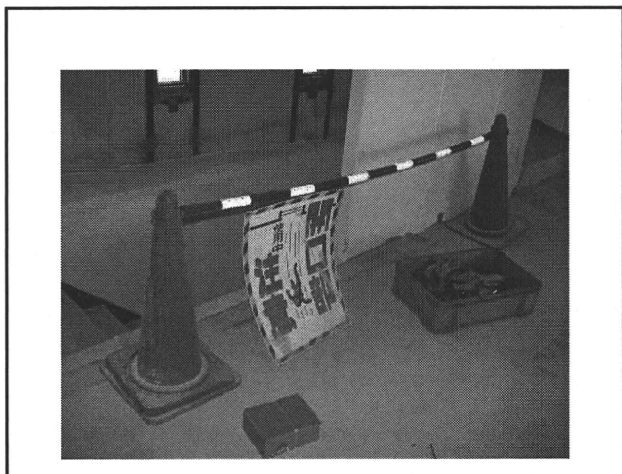


2. 不必要な材料は作業場の外に置きます。

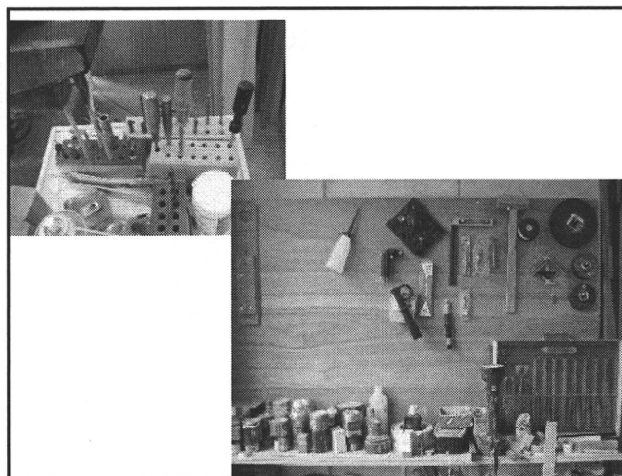
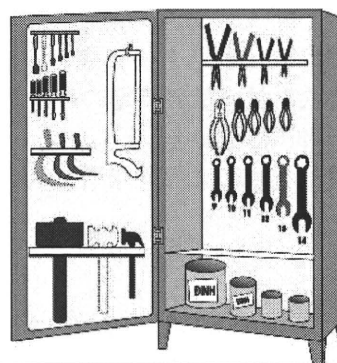


3. 開口部には囲いをします。





4. 道具や器材には保管場所を作ります。



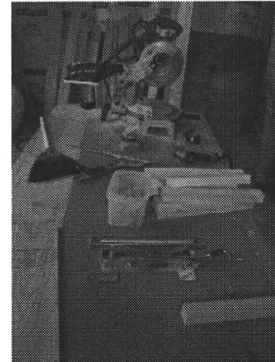
ルール 2: 移動は少なく短くします。

- 1. よく使うものは、手の届く範囲に置くようにします。
- 2. 多段型の棚を使います。
- 3. 台車や手押し車を使います。

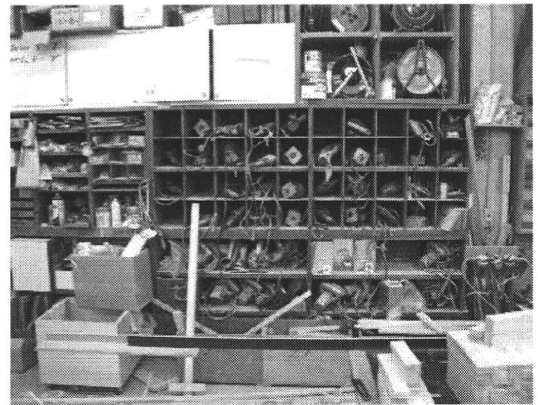
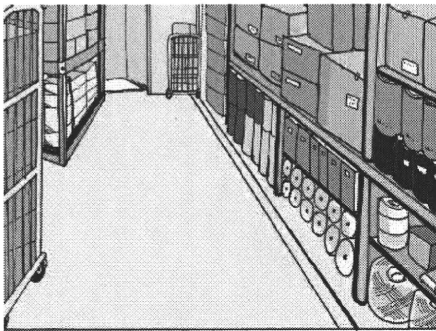
1.よく使うものは、手の届く範囲に置くようにします。



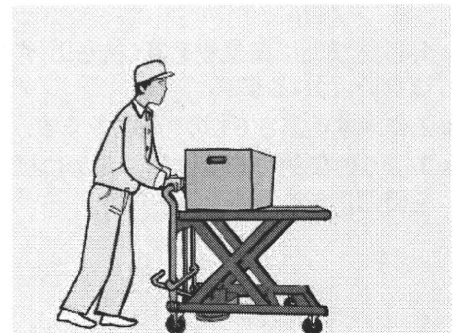
1.よく使うものは、手の届く範囲に置くようにします。

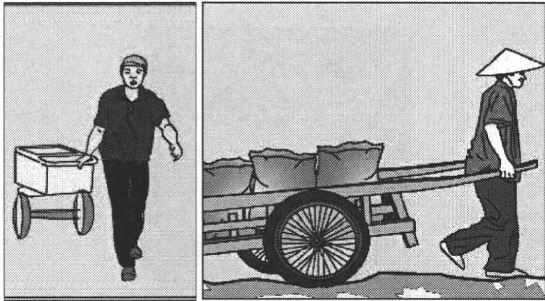


2.多段型の棚を使います。



3.台車や手押し車を使います。





材料を動かすときには、カート、手押し車、ローラー、車付きの収納皿など車輪の付いた機器を使います。

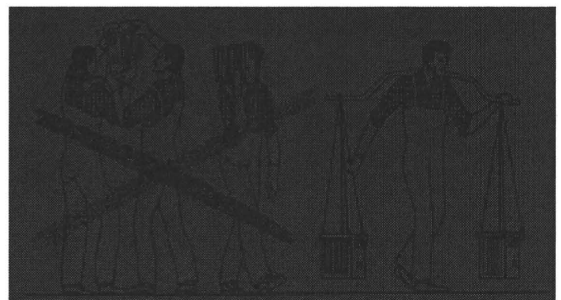


ルール 3: 重量物の移動は少なく、効果的にします。

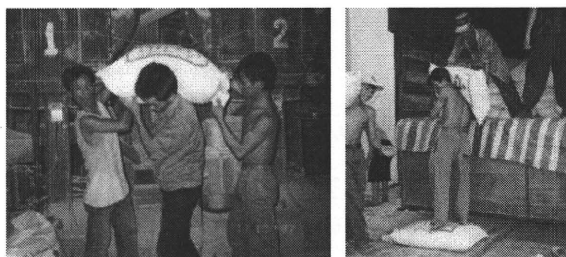
- 1. 必要以上に重量物を高く持ち上げて運ばないようにします。
- 2. 作業する高さでものを移動します。
- 3. より効果的で安全に運ぶために機械を使用します。

23

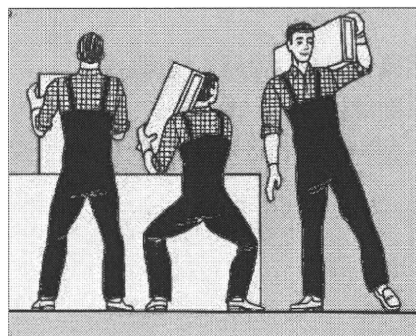
1. 必要以上に重量物を高く持ち上げて運ばないようにします。



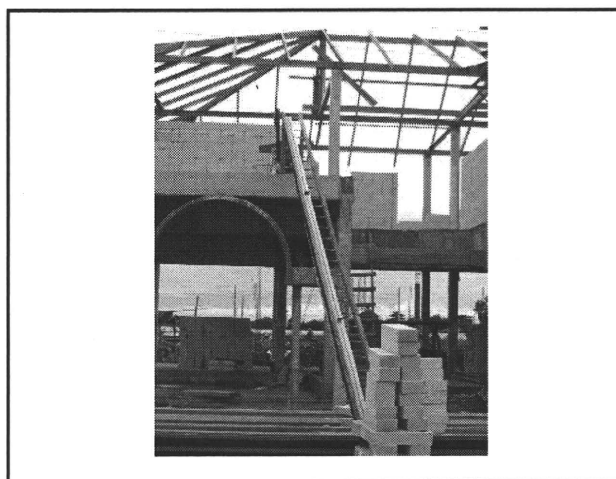
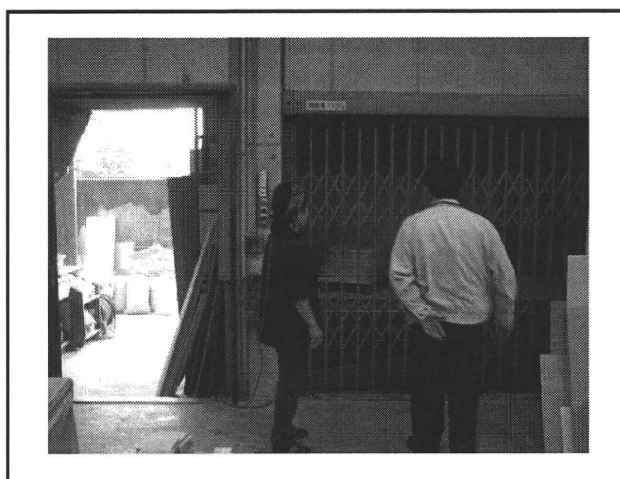
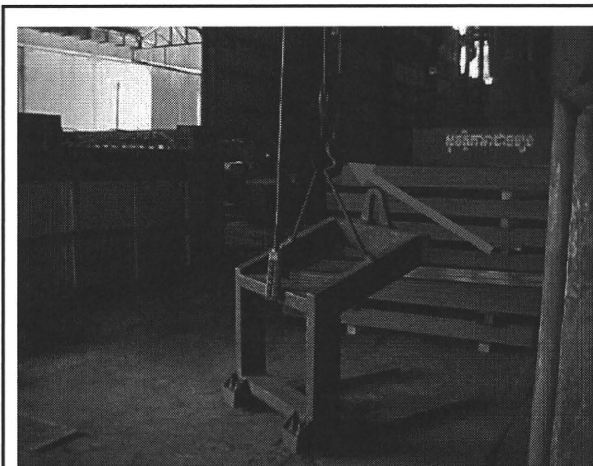
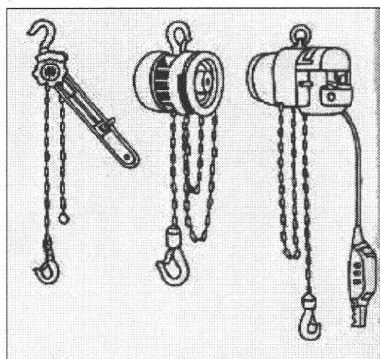
1. 必要以上に重量物を高く持ち上げて運ばないようにします。



2. 作業する高さでものを移動します。



3. より効果的で安全に運ぶために機械を使用します。



1. ものの保管と移動

ものの保管と移動の三つのルール

1. 明確で安全な通路を確保します.
2. 移動は少なく短くします.
3. 重量物の移動は少なく、効果的にします.

**Workshop for the Development of
Ergonomic Checkpoints in Human Care Work:
A Contribution to the International Ergonomics Association (IEA)
of the Human Ergology Society (HES)**

ヒューマンケアワークのための
人間工学チェックポイント開発会議
2010年12月26-27日、国際文化会館、港区

26-27 Dec 2010
In International Culture of Japan (Tokyo)

- Project title:
 - Development of Ergonomic Checkpoints in Human Care Work
- Duration:
 - October 2010 – December 2011
- Coordinator:
 - Working Group on Ergonomic Checkpoints in Human Care Work within the Human Ergology Society, an Affiliated Society of the International Ergonomics Association (IEA)
- Objective:
 - As a contribution to the Ergonomic Checkpoints Series of the IEA, Ergonomic Checkpoints in Human Care Work will be developed for review by the IEA and subsequent publication as one of the Ergonomic Checkpoints Series
- Output:
 - Draft Ergonomic Checkpoints in Human Care Work containing a consolidated action checklist, checkpoints describing the rationales and improvement options for improving human care work with illustrations
- Finance:
 - The expenses for organizing the Working Group and preparing the whole draft including illustrations will be borne by the HES

- Format: Each checkpoint describes:
 - Why/Risks/symptoms/How/Some more hints/Points to remember/Illustrations
- Contents:
 - A total of 60 checkpoints will comprise the following sections:
- Planning of human care work
 - Working time arrangements
 - Work load and working methods
 - Work environment
 - Social support and welfare facilities
 - Teamwork and work organization
- Annexes: The following annexes will be prepared:
 - Practical hints for using Ergonomic Checkpoints in Human Care Work
 - An example of Human Care Workplace Checklist
 - Sample programmes for organizing training workshop
- Contact:
 - 1. Prof. Kazuo Maie, President of the Human Ergology Society, Otsuma Women's University, Tokyo, Japan (maie@otsuma.ac.jp)
 - 2. Ms. Etsuko Takahashi, Secretary to the Working Group on Ergonomic Checkpoints in Human Care Work of the Human Ergology Society, Yokkaichi Nursing and Medical Care University, Yokkaichi, Japan (e-taka@y-nm.ac.jp)

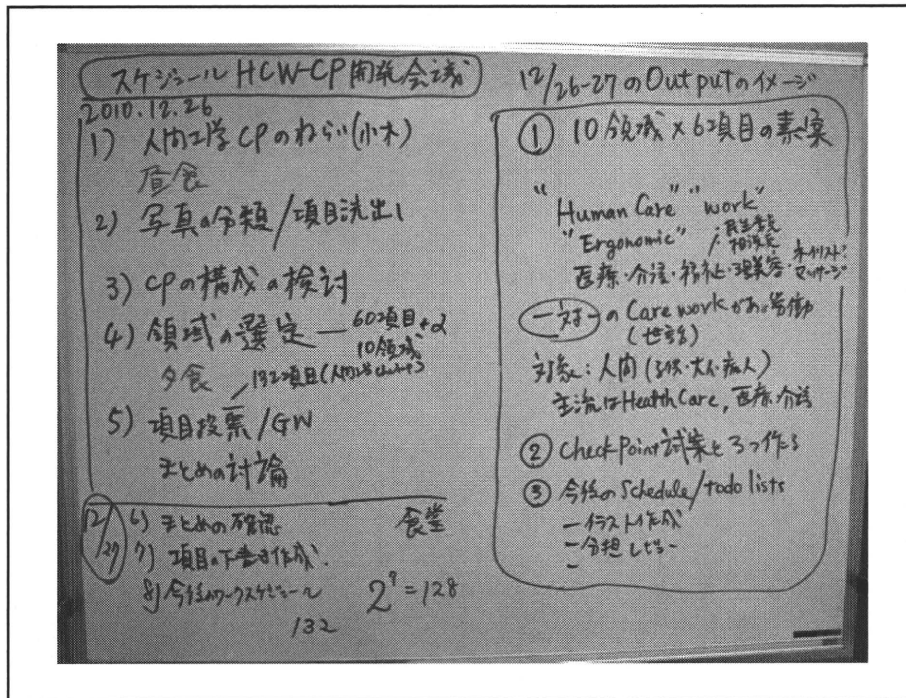
12/26-27合宿のワークの結果

<第1日目12/26>

- 良好写真の分類
- CP領域の項目の洗い出し
- CPの解説ページの構成の検討
- 各領域のアクションの列挙とグループ分け

<第2日目12/27>

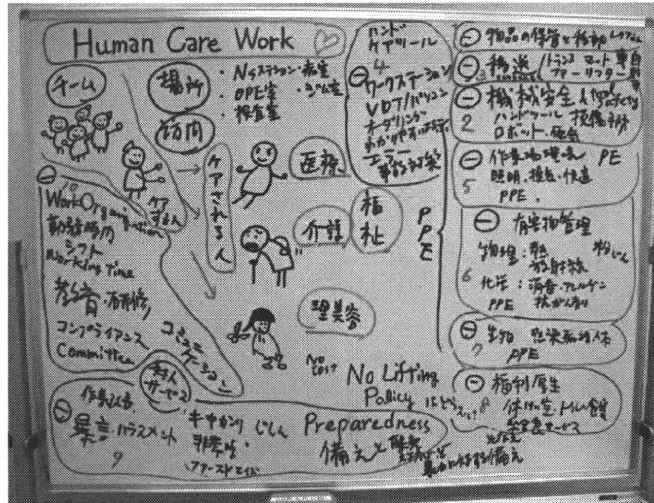
5. リスク/症状のワードのチェック
6. 人間工学CP(第2版)からのヒューマンケアワーク応用項目選定
7. 領域と項目の洗い出し
8. 最終成果:10領域、60項目



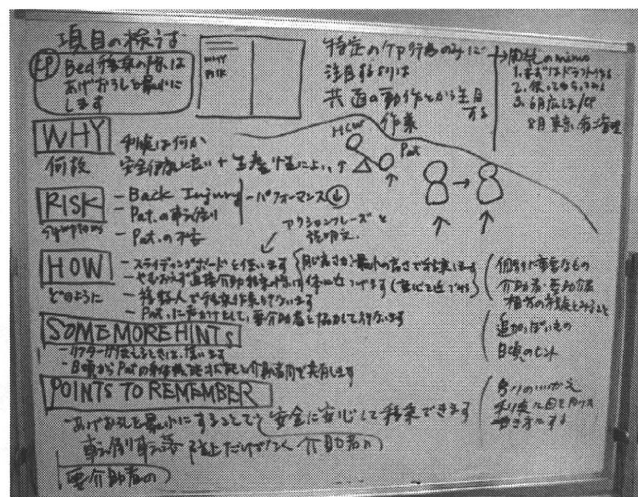
(1) 良好写真の分類



(2) CP項目洗い出し



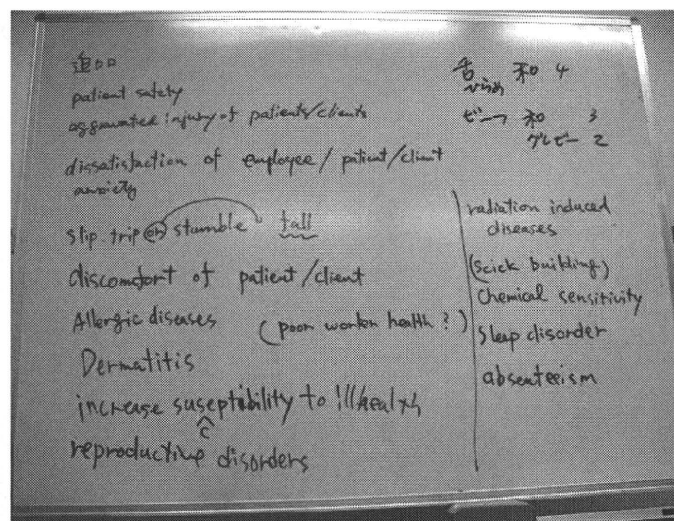
(3) CP構成の検討



(4) 各領域のアクションの列挙



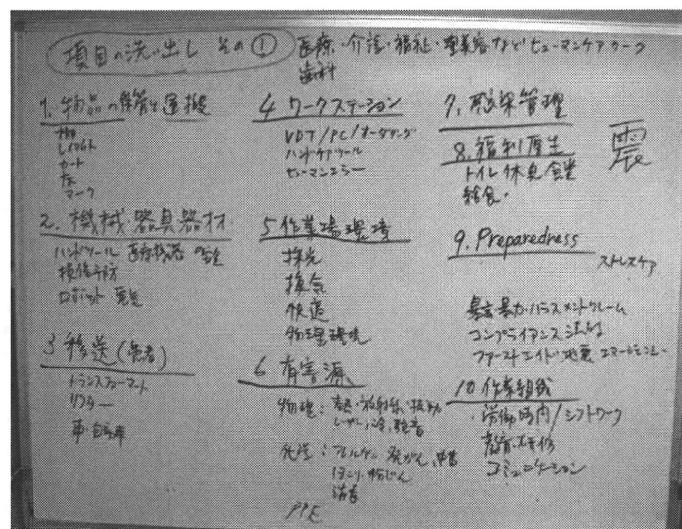
(5) リスク/症状のワードのチェック



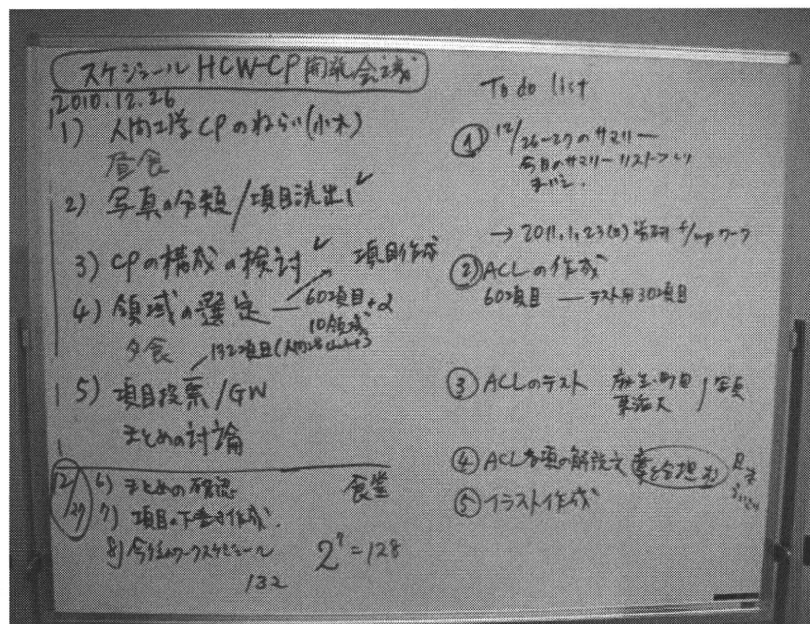
(6) 人間工学CP(第2版)からの ヒューマンケアワーク応用項目選定

- 132項目のチェック
ポイントのうち、
ヒューマンケアワー
クに応用できる
チェック項目60項
目を、各自選定
- 投票
- 集計

(7) 領域と項目の洗い出し



(8) 最終成果: 10領域、60項目



III. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
毛利一平 吉川 徹 酒井一博	外国人労働者における 労災・職業病発生 の実態	矢野栄二 井上まり子	非正規雇用 と労働者の 健康	労働科学 研究所出 版部	川崎	2011	251-272

雑誌等

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
石丸知宏 吉川 徹	ベトナムの大企業/多国籍企業にお ける安全衛生ワークショップ	労働の科学	66(4)	44-49	2011

IV. 研究成果の刊行物・別刷り

PRECARIOUS EMPLOYMENT &
WORKER'S HEALTH

非正規雇用と 労働者の健康

矢野 栄二
井上 まり子 編著

岡根 秀一郎
飯島 美世子
湯浅 誠
脇田 滋
奥西 好夫
杉田 稔
鶴ヶ野 しのぶ
錦谷 まりこ
飯島 純夫
栗 あさみ
丸山 総一郎
瀬戸 昌子
毛利 一平
吉川 徹
酒井 一博
森 晃爾
石竹 達也 著



財団法人
労働科学研究所

第4部-6

外国人労働者における労災・職業病発生の実態

4.6.1 はじめに

日本における外国人労働者が、社会的に注目されるようになったのは1980年代後半として良いだろうか。1987年には入管協会により「国際人流」^{註1)}という雑誌の創刊準備号が発行されている。

厚生労働省の統計（外国人労働者の雇用管理に関する研究会資料等）によれば、1990年に15万人と推計されていた外国人正規労働者は、2006年には75.5万人へと、直線的に増加している¹⁾。その後、同様の推計値は見当たらず、2007年からは「外国人雇用状況の届出」が義務化されたことから、同報告に基づく「外国人雇用状況の届出状況」が公表されているが、それによると、2010年10月末における外国人労働者数は約65万人で、そのうち約18万人（28%）が請負もしくは派遣の形態で働いているとされる²⁾。

外国人労働者は、労働安全衛生の観点からは、労働起因性の健康・安全リスクに対して脆弱な集団であるとされる。これは、半ば経験的・直観的な認識と違ってよく、学術的・定量的なデータが示された論文を見つけないことは難しい。

保健・医学系の論文を念頭に置き、アメリカ国立医学図書館（NLM）のデータベース（PubMed）を検索したところで、“migrant worker”がキーワードとして含まれる文献はわずか57件に過ぎず、さらにその中で労働災害・職業病について扱った論文となると、ほぼ皆無となる。一方で外国人労働者の健康問題

は、早くからILOやWHOなどの国連専門機関にとって重要なテーマであったが^{3,4)}、それはその時すでに、移住労働者の問題が広く知られていたからにはほかならない。そもそも、ILOに至っては、その設立の目的として「移住労働者の保護」が掲げられていたのである³⁾。

しかし、こうして古くから知られる問題ではあっても、状況は常に解決からはほど遠く、社会的な問題として告発するルポルタージュは国外をはじめ⁵⁾、国内でも数多く目にする事ができる⁶⁾。最近では、社会学者による調査報告⁷⁾などもあり、その実態に対する(社会)科学的なアプローチが進みつつある。

一方、集団的なアプローチ、すなわち疫学的な視点から見ると、外国人労働者の労災・職業病の問題については、「何がわからないのかさえない状態にある」といってよい。年間どれだけの外国人労働者が、労働災害、あるいは職業病で苦しんでいるのかさえ把握できているとは言い難い。結果として、外国人労働者の労災・職業病に関して、政策的に状況を改善するために必要な社会資源の総量を決定するに足るエビデンスは、いまだ得られていない。

結局のところ、現状では古典的で経験的・直観的な認識、すなわち「外国人労働者の多くは3K(きつい、汚い、危険)職場での労働を強いられる傾向にある」、「言葉や文化の違いが、安全衛生活動(教育、訓練、指導)を困難にする」、「外国人労働者は長時間労働を強いられることが多く、ゆえに一般的な健康状態が悪く、労災・職業病のハイリスクグループとなる」、さらに「外国人労働者は社会保障の恩恵を十分には受けられない」といったこと⁸⁾が、外国人労働者の労災・職業病問題を考える上でのよりどころとなっているのである。

しかしこうした認識は、労働安全衛生の立場から現場の改善に取り組もうとする場合には、大まかにすぎる。より具体的な課題の抽出が必要である。

こうした現状を背景として、筆者らは2009年より厚生労働科学研究費補助金(労働安全総合研究事業、課題名「非正規雇用の一典型としての外国人労働者における労災・職業病リスクの解明と参加的手法による予防対策の確立」)を得て、この問題について調査・研究をおこなう機会を得た。